

**(仮称) 千葉市スマートシティ推進ビジョン**  
**～地域と共に創るスマートシティ～**  
**【原案】**

令和3年5月  
千 葉 市

1	策定趣旨	…2
2	位置付け・期間	…3
3	策定の背景	…4
	(1) 本市を取り巻く重要な社会変化	
	(2) これまでの主な取組み	
	(3) テクノロジーの進展	
	(4) 国の動向	
4	基本的な考え方	…11
	(1) 千葉市が目指すスマートシティ	
	(2) スマートシティ実現のための原則と重視する視点	
5	取組みの方向性～5つのスマート！～ 〔暮らし・働き方・学び・まち・市役所〕	…16
6	推進体制・推進手法	…22
7	ロードマップ	…25

本市は、将来予想される重要な社会変化に対し、持続可能なまちづくりを進めるため、急速に進展するテクノロジーと、これまで培ってきたICT活用に関するコミュニティやノウハウを最大限に活かし、地域とともに「スマートシティ」の実現を目指します。

## ①本市を取り巻く重要な社会変化

- ✓ 人口減少・少子高齢化の進展
- ✓ 地球温暖化による気候変動
- ✓ 大地震の発生による被災リスク
- ✓ 新型コロナウイルス等感染症拡大リスク
- ✓ 公共インフラの老朽化

## ②これまでの取組みによる成果

- ✓ 多様な主体との連携
- ✓ テクノロジー活用に関連するノウハウの蓄積やコミュニティの構築

## ③テクノロジーの進展

- ✓ IoT・センシング技術
- ✓ 分析・予測技術
- ✓ 通信・ネットワーク技術
- ✓ 自動制御技術

## ④国の動向

- ✓ Society5.0の提唱
- ✓ デジタル・ガバメントの推進

さらなる飛躍・発展を遂げるための好機が到来

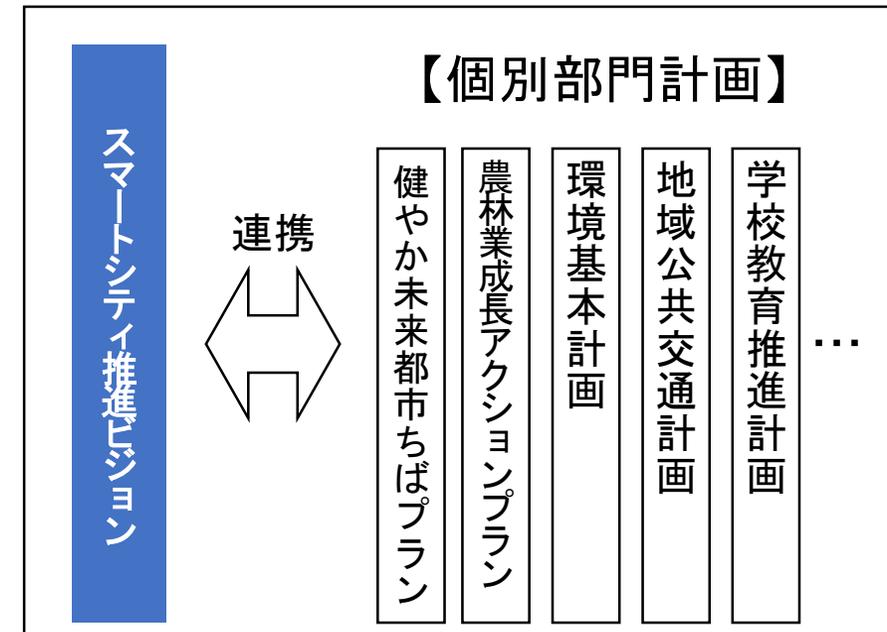
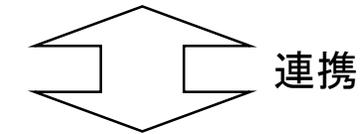
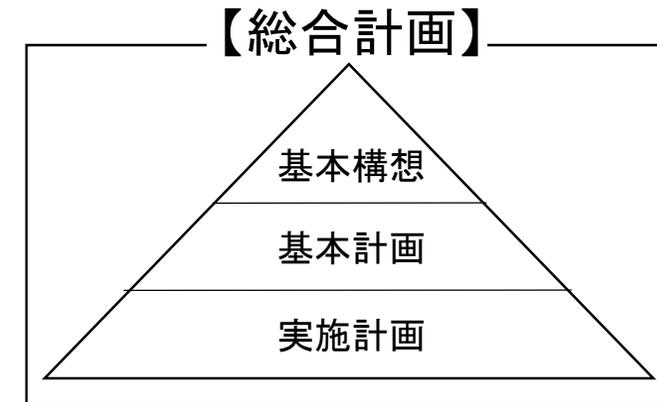
テクノロジーの活用などにより市域全体の生活の質の向上を図り、地域とともに持続可能なまちづくりを進めるため、目指すスマートシティの姿や取組みの方向性を地域住民や民間企業など、異なる役割を担う多くのプレイヤー（ステークホルダー）と共有する「（仮称）スマートシティ推進ビジョン」を策定

## 【位置付け】

総合計画におけるまちづくりを推進し、スマートシティを実現するため各個別部門計画と整合を取りつつ、分野横断的な指針として策定

## 【期間】

20年後を見据えての10年程度を対象  
※国の政策の方針や先端技術等の動向を踏まえ、5年程度を目安に見直す。



## (1) 本市を取り巻く重要な社会変化

人口減少・少子高齢化など、今後本市が直面することとなる重要な社会変化について整理します。これら社会変化の到来に備え、柔軟かつ持続可能なまちづくりが求められます。

### ○ 人口減少・少子高齢化

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京から50km圏は人口増減の境界線、本市は人口増加地域の波打ち際</li> <li>・ 出生者が死亡者を下回る「自然減」の状態</li> <li>・ 市以東、以南地域の人口は既に減少</li> <li>・ 2020年をピークに人口減少に転じる見込み（平成27年国勢調査を基準とした将来推計）</li> <li>・ 合計特殊出生率は2016年から低下し、2019年は1.26</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化率は2055年に約4割まで上昇見込み</li> <li>・ 高齢者の増加に伴う社会保障費の増大</li> <li>・ 生産年齢人口の減少に伴う税収減</li> </ul>

### ○ 地球温暖化による気候変動

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気温の長期的な上昇傾向（記録的猛暑の発生）</li> <li>・ 氷河、氷床の融解による海面水位の上昇</li> <li>・ 令和元年の台風や大雨により、電力・通信の断絶が生じるなど市民生活に甚大な被害が発生。その経験を教訓として、「災害に強いまちづくり政策パッケージ」を策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 猛暑や大雨・洪水被害等、自然災害の深刻化・頻発化</li> <li>・ 気温や海水温・海面水位のさらなる上昇</li> <li>・ 生態系の変化（環境に適応できない生物の絶滅）</li> </ul>

## ○ 大地震の発生による被災リスク

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東日本大震災では、液状化現象により、家屋や公共施設等に甚大な被害が発生するだけでなく、通信網や交通網の混乱により、多数の帰宅困難者が発生</li> <li>・ 東日本大震災や熊本地震、千葉市地震被害想定の調査結果等に基づき、地域防災計画を修正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府は、今後30年以内に、市役所地点が震度6弱以上の激しい揺れに見舞われる確率を62%と予測</li> <li>・ 首都中枢機能への影響や、火災や帰宅困難などによる膨大な被災者の発生</li> </ul>

## ○ 新型コロナウイルス等の感染症リスク

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルスの影響                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 感染症患者が多数発生</li> <li>→ 緊急事態宣言の発出等により、社会経済活動が停滞</li> <li>→ 市民・企業とともに社会を変えるチャンスととらえ、「ちばしチェンジ宣言！」を発出</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポストコロナ社会の到来</li> <li>・ デジタル化の急速な進展。経済活動、社会活動におけるサイバー空間（仮想空間）の活用の加速</li> <li>・ 有効な解決策を持たない新たな感染症が流行し、再び社会経済活動の停滞や市民生活が制限されるおそれ</li> </ul>

## ○ 公共インフラの老朽化

現状	今後直面する社会変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設・道路・市営住宅等の公共インフラの老朽化が進展</li> <li>・ 長寿命化計画の策定。計画に基づく維持管理の実施</li> <li>・ 安全点検等の保全業務を行う技術者の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インフラの老朽化が一層進行し、更新時期を迎えるインフラが多数発生</li> <li>・ インフラの更新に莫大な費用が発生</li> <li>・ 安全点検等の保全業務を行う技術者不足の深刻化</li> </ul>

## (2) これまでの主な取組

本市では、これまでも市民に時間を返す市民サービスや、官民協働の推進、産官学の連携による国家戦略特区制度を活用した実証等、テクノロジーを活用した取組みを積極的に推進しています。

### ○ 「時間を返す」市民サービスの実現

#### 区役所窓口の混雑状況の配信



スマートフォンの表示例

#### 【取組内容】

- ・ パソコンやスマートフォンから、区役所窓口（市民総合窓口課）の待ち人数や時間、呼び出し中の番号をリアルタイムで表示
- ・ 窓口の呼び出し順が近づいたらプッシュ通知

#### 【取組の趣旨】

- ・ 市役所への滞在時間の最小化
- ・ 来庁者の分散化による混雑回避

#### 地図情報のインターネット公開



#### 【取組内容】

- ・ 本市が管理する道路等の認定道路網図をはじめ、都市計画情報、建築基準法指定道路図、下水道施設平面図等の情報を、インターネットで提供

#### 【取組の趣旨】

- ・ いつでもどこでも誰でも地図情報が閲覧可能になることによる市民サービスの向上
- ・ 職員の窓口業務の負担軽減

## ○市民全員参加のまちづくり

### 市民協働プラットフォーム「ちばレポ」の運用



スマートフォンの表示イメージ



ちばレポの流れ

#### 【取組内容】

- ・市民からレポートされる地域の課題（道路や公園の損傷等）をWEB上で可視化・共有化し、市民協働により解決可能な課題は市民の力で解決を目指すサービスを提供

#### 【取組の趣旨】

- ・まちづくりへの協働意識の高まり
- ・いつでもどこでも誰でも行政・市民と共有可能
- ・行政の業務処理の効率化

### ちばシティポイント

#### ボランティア 関連活動



#### 健康維持・ 増進活動



#### 市の推進する 施策等



ちばシティポイントの対象事業（令和3年5月現在）

#### 【取組内容】

- ・ボランティア関連活動や健康維持・増進活動等に参加することでポイントを付与
- ・貯めたポイントは電子マネーや特典品への交換、NPO法人への寄付等が可能

#### 【取組の趣旨】

- ・市民等の対象活動への参加意欲の向上
- ・地域コミュニティの活性化

## ○国家戦略特区制度を活用した実証

### 自動運転・パーソナルモビリティ※<sup>1</sup>の走行実証



次世代モビリティの一例

【取組内容】自動運転バスやパーソナルモビリティ等の公道実証等  
 【取組の趣旨】都市の回遊性の向上、ラストワンマイル※<sup>2</sup>の課題解決等

### ドローン宅配実証



【取組内容】東京湾臨海部の物流倉庫から幕張新都心まで東京湾上空を飛行し、若葉住宅地区のマンションに宅配（千葉市ドローン宅配構想）  
 【取組の趣旨】配達時間の短縮等による利便性向上、物流に係る人手不足の解消等

### シェアリングエコノミー※<sup>3</sup>の活用推進



【取組内容】イベントホームステイ、特技や趣味等の体験提供による観光まちづくりの推進に向けたサービス提供者の発掘・育成・実践機会創出  
 【取組の趣旨】地域共助の促進

### 都市部におけるオンライン服薬指導

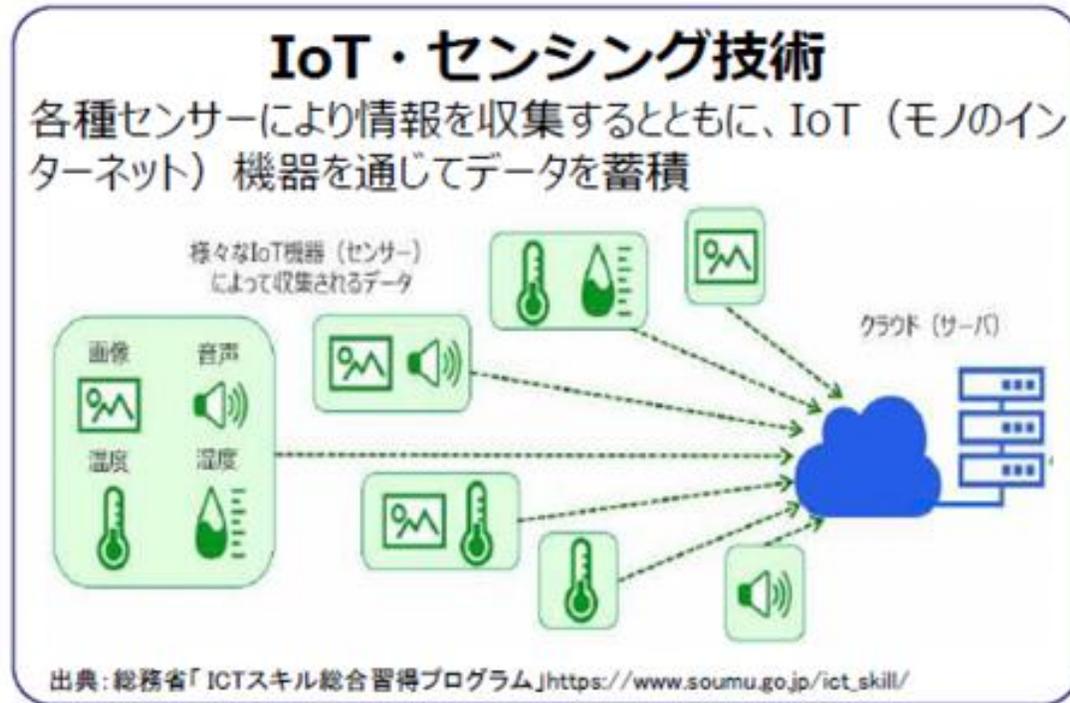


【取組内容】市内在住の患者にオンライン服薬指導を実施  
 【取組の趣旨】生活の利便性向上、医療機関や薬局での待ち時間の解消

※<sup>1</sup> 主にバッテリーを動力源とした1人乗りの簡便な乗り物や移動機器  
 ※<sup>2</sup> バス停や駅から自宅までの間など、到着場所から最終目的地までの比較的短い距離の移動手段  
 ※<sup>3</sup> 個人等が保有する活用可能な資産等をマッチング事業者を介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動

## (3) テクノロジーの進展

近年、センサーにより収集した情報をIoT機器を通じて蓄積する「IoT・センシング技術」、自動車やロボット等を自動制御する「自動制御技術」、多種多量のデータを高速に転送する等の「通信・ネットワーク技術」、蓄積された膨大なデータを統合・AI等が分析・予測する「分析・予測技術」等のテクノロジーが急速に進展しています。これらのテクノロジーは持続可能なまちづくりを実現するためのツールとして有効です。



### 自動制御技術

自動車やロボットの自動制御に向けた取組の進展



自動運転

配送ロボット

出典：内閣府SIP「SIP CAFE」  
<https://sip-cafe.media/>

## (4) 国の動向

急速なテクノロジーの進展やシビックテック※1活動の活発化を背景に、先端技術等のテクノロジーをあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな社会の実現を目指しています。

本市はこれまでもテクノロジーを積極的に活用した市民サービスを提供しており、ノウハウやコミュニティを有していることから、新たな社会を実現しやすい環境にあります。

### 【Society5.0の提唱】

IoTによりサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を連携し、すべての物や情報、人を一つにつなぐとともに、AI等の活用により量と質の全体最適をはかる社会として「Society5.0」を提唱

#### ○ Society5.0で実現する社会



出典：Society 5.0「科学技術イノベーションが拓く新たな社会」（内閣府）

### 【デジタル・ガバメント※2実行計画】

Society5.0の実現に向け、デジタルファースト・ワンズオンリー・ワンストップを3原則に、行政サービスを100%デジタル化し、利用者中心のサービス提供を目指すための具体的な実行計画

#### ○ デジタル・ガバメント実現のためのグランドデザイン

**2030年の行政サービスのあり方**

～人口減少・高齢化する社会をデジタル技術でサポートすることで、一人一人に寄り添った、利用者中心の行政サービスを実現～

- ① 国民・事業者にとって快適なサービス：マルチチャネル・ノンストップサービス、民間との融合によるサービス多様化、国際化したコミュニティへのサービス提供
- ② 行政サービスの担い手の多様化：行政職員が働きやすく生産性の高い職場作り、新しい行政サービスの担い手（民間）との協働
- ③ 効率的・効果的な行政サービス：制度変革のスピードアップ、組み立て型サービス、効率性とセキュリティ確保の両立、オープンな調達・開発・評価
- ④ プロフェッショナルチームの活用：行政内のデジタル化人材の多様化、官民コラボレーションの推進
- ⑤ インクルーシブな社会の実現：デジタル化へのマイナスイメージの転換、デジタルサポートによるインクルージョン社会の実現

**実現のための政府情報システム・データ整備等の4つの柱**

ユーザー体験志向	データファースト	政府情報システムのクラウド化・共通部品化	政府のスマート化
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ パルソナ活用によるUI/UXの多様化、使い易さ向上</li> <li>✓ API活用による民間サービスとの融合</li> <li>✓ デザインシステムの活用とブロック化</li> <li>✓ マーケティングの活用と継続的なサービス改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ベース・レジストリの整備</li> <li>✓ データ品質指標の策定と評価</li> <li>✓ データ・エコシステムを念頭に置いたデータ設計手法の最新化</li> <li>✓ 行政内でのデータの共有・活用に係るルールの検討</li> <li>✓ 組織におけるデータ・マネジメントの体系整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ クラウドサービス利用の本格化</li> <li>✓ 情報システムの共通部品化</li> <li>✓ 認証機能の利活用の高度化</li> <li>✓ 利便性と両立するセキュリティ機能</li> <li>✓ 政府情報システムのITモダナイゼーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 政府情報システムの調達・開発・運用手法の見直し</li> <li>✓ 新しい開発手法やツールの導入によるデジタル化の加速</li> <li>✓ 横断的なデジタル人材の育成と政府の実施体制の整備</li> <li>✓ 職員の働き方改革</li> <li>✓ エマージング・テクノロジーへの対応</li> </ul>

**2030年の目標達成に向けて**

- ✓ 今後、具体的な取組や実行主体、取組期間、KPIなどを明確にし、適切な施策であり続けるよう定期的にフォローアップを行う

※1 Civic（市民）とTech（テクノロジー）を掛け合わせた造語で、市民がテクノロジーを活用して、地域が抱える課題を解決しようとする取り組み

※2 デジタル技術を活用しながら行政サービスを見直し、国が抱える社会問題の解決や経済成長を実現するための改革

### (1) 千葉市が目指すスマートシティ

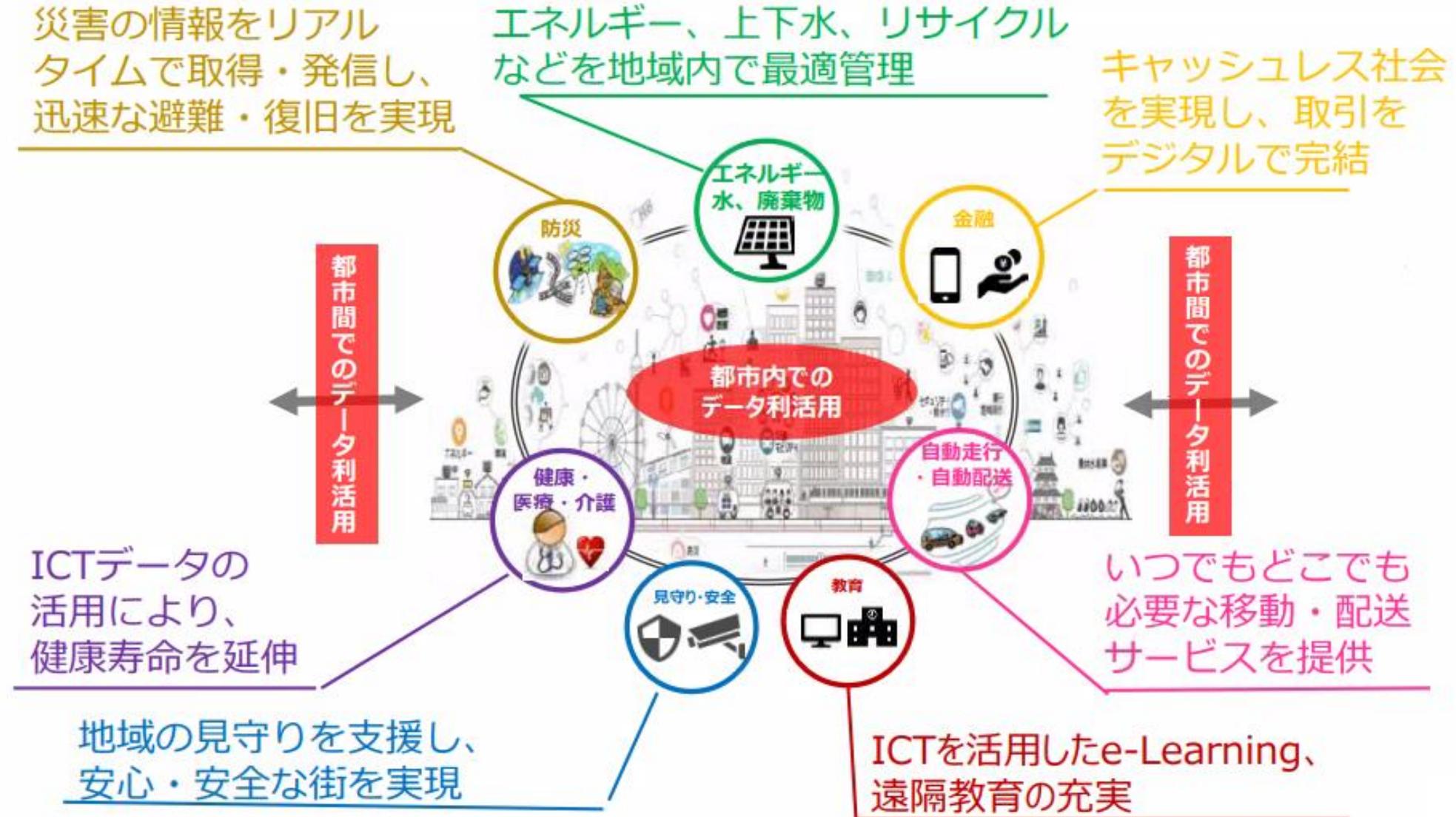
誰もが自然にテクノロジーを使えて、  
大切な時間・空間・資源を賢く有効に利用でき、  
安全・安心で便利・快適な生活を長く続けられるまち

ICTやAIなどのテクノロジーが、電気やガス・水道などのように特別に意識することなく生活の中であり、市民や企業などすべての方々がその恩恵を受けることにより、限りある社会資源を最適に利用することで、市民生活の質向上や企業の生産性向上などのメリットが感じられる、安全・安心・便利・快適で持続可能なまちづくりを目指します。

# 4 基本的な考え方②

千葉市の目指すべき姿を表現した  
絵を記載する予定です。  
※現在は国の絵を転載しています。

## ○スマートシティのイメージ



## (2) スマートシティ実現のための原則と重視する視点

目指すスマートシティの実現に向け、重要かつ基本的な事項として「3つの原則」を、その上で留意すべき事項を「5つの視点」としてそれぞれ整理し、原則・視点に則った取組みを推進します。

### 3つの原則

#### ①市民中心

- ・市民中心を最重要原則とし、市民に時間を返す取組みの推進や地域コミュニティの活性化など、市民目線に立ったまちづくりを実現
- ・利用者意見、対象となる課題、本市の地域特性等を踏まえ、すべての市民が利用しやすく最適なサービスを受けられる環境整備やICTリテラシーの向上

#### ②課題解決・価値創造

- ・地域課題を解決し、目指すべき姿を実現するためにテクノロジーを活用
- ・既存の取組みや枠組みに捉われることなくゼロベースで考え、国家戦略特区制度の活用や実証事業の積極的な受け入れ等、チャレンジ精神を持って取組む中から新しいテクノロジーや考え方を取り入れて新たな価値を創造

#### ③分野横断・全体最適

- ・より市民が効率的かつ便利なサービスを受けられるよう、複数サービスの組み合わせや様々な主体が保有するデータを活用した複合サービスなど、分野横断・全体最適の取組みを推進
- ・近隣自治体を巻き込んで解決を図るべき課題は、対象自治体の課題認識を確認しつつ、検討段階から連携して解決策を検討するなど、自治体横断での取組みを推進
- ・横断的な取組みや自治体間連携を容易に行うため、汎用性を意識したサービスを検討

## 5つの重視する視点

### ①多様な主体との連携

- ・ 大学・民間企業・関係団体・市民グループなど、多様なステークホルダー等との緊密な協力・連携を図り、各者が保有する豊富な知見を活かした取組みを推進
- ・ イノベーションによる新産業創出を視野に、様々な主体が保有するデータをみんなで活用（オープン化）

### ②自立性

- ・ 将来予測を踏まえつつ、経済的な持続性を考慮した仕組みを検討
- ・ サービス利用者の維持・拡大及びサービス提供者のモチベーションの維持・向上を図り、持続的にサービスが利用できる環境を構築
- ・ 市民、民間、行政のそれぞれがメリットを享受できる仕組みを意識（三方良し）

### ③個人情報取り扱い

- ・ 利用用途等をわかりやすく明示するなど、実施サービスごとに取り扱いルールを定め、市民が安心して利用できるサービス

### ④情報セキュリティ

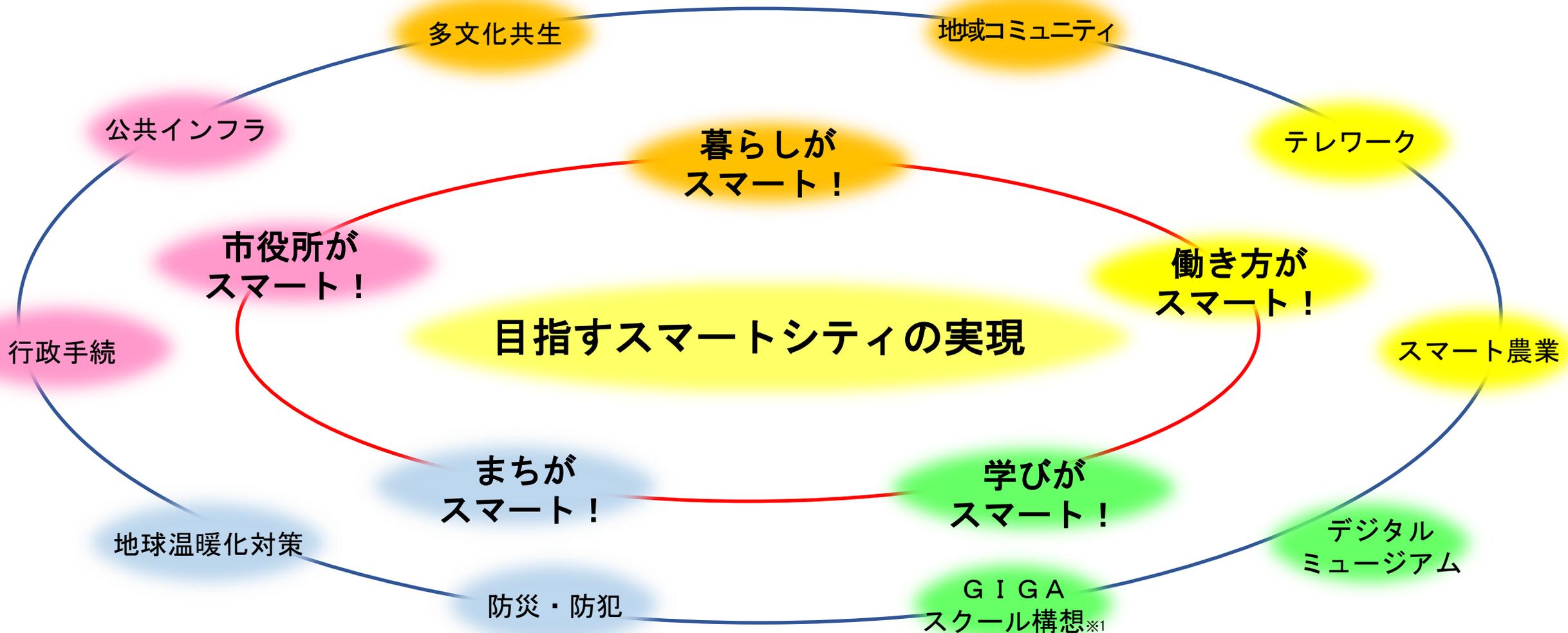
- ・ 今後さらなる巧妙化・複雑化が想定されるサイバー攻撃等に対応した強固な情報セキュリティ対策の実施
- ・ 提供者・利用者双方の情報セキュリティの確保

### ⑤データ活用

- ・ 複数のデータを組み合わせ、分析により得られた知見を活用し、課題解決・イノベーションによる新たな価値創造
- ・ 将来的な利活用を視野にデータを収集・取得する場合は、事前に対象者の同意を得てから実施するなど、適切なルールの下で管理・蓄積
- ・ データ活用により課題解決策を導くためのデータ活用人材の育成

# 5 取組みの方向性 ～5つのスマート！～

目指すスマートシティの市民（利用者）目線での実現に向けて、あらゆる分野を「暮らしがスマート！」「働き方がスマート！」「学びがスマート！」「まちがスマート！」「市役所がスマート！」の5つに分類し、様々な取組を分野横断的に順次実施していきます。



※1 GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現することにより、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に出すことを目指した取組み。

# 5 取組みの方向性(その1) 暮らしがスマート！

方向性	目指す姿
<b>暮らしがスマート！</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・誰もが時間や場所等の制約のない、一人ひとりのライフスタイルにマッチしたサービスを利用できる。</li><li>・あらゆる人が自由な時間に目的の場所まで移動でき、その後、用事を済ませて帰宅するまでの移動・予約・支払い等をスムーズに行うことができる。</li><li>・全ての人が性別・国籍・障害の違いによらず、健康で自分らしい生活ができる。</li><li>・誰もが意識することなくデジタルデバイスを活用してサービスを利用できる。</li><li>・空間・物・スキル・移動・お金のニーズ・シーズが容易に結びつき、あらゆる資産を無駄なく運用できる。</li></ul>



## 【取組例】

取組項目	概要
多様な移動・交通サービスの提供	利用者目線による移動・交通サービスの最適化
デジタルによる多文化共生社会の構築	外国人が「住みたくなる」・「働きたくなる」・「訪れたくなる環境整備
デジタルデバイドの解消	すべての市民がデジタル化の恩恵を享受できる環境構築

# 5 取組みの方向性(その2) 働き方がスマート！

方向性	目指す姿
<p><b>働き方がスマート！</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが物理的な場所に固定されることなく任意の場所で仕事ができる。</li> <li>・全ての職場において、テクノロジー活用の推進役の下、テクノロジー活用による生産性向上や業務効率化を推進している。</li> <li>・定型業務や単純作業をはじめ、危険を伴う作業等はロボットが行うなど、テクノロジーを活用して負担軽減や業務効率化を図っている。</li> <li>・国籍や身体的な理由等を問わず、あらゆる人がやりたい仕事に就ける。</li> </ul>



## 【取組例】

取組項目	概要
テレワーク環境の整備（企業・市役所）	企業・市役所職員がライフステージに合わせて多様で柔軟な働き方を選択可能なテレワーク環境を整備
デジタル活用人材の育成（企業・市役所）	企業・市役所において、ICTを活用して生活をあらゆる面でもより良い方向に変革させられるデジタル活用スキルを有する人材の育成
スマート農業の推進	先端技術やデータを駆使した農業経営の支援及び農業経営者の維持・拡大
介護人材の確保	ロボットやセンサー、ICTの活用による介護職員等の業務支援

方向性	目指す姿
<p><b>学びがスマート！</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先進技術を活用し、多様な児童生徒が個別最適化された学びを実現できる。</li> <li>・ 誰もが時間や場所の制約を受けず、講座やセミナー等を受講することができる。</li> <li>・ あらゆる人が図書館の蔵書や美術館の収蔵品等をオンラインで借りたり、鑑賞したりすることができる。</li> <li>・ 誰もがデジタルデバイスの使い方を学ぶことができ、サービスを受けるために必要な能力を養成できる。</li> </ul>



## 【取組例】

取組項目	概要
個別最適化された学びの実現	ICT活用により誰一人取り残すことのない学びの実現
誰もが生涯にわたり学び続けられる環境づくり	いつでも、どこでも、誰もが必要なときに必要な学びが受けられる環境整備
電子図書館、デジタルミュージアムの構築	いつでもどこでも本の貸し出しや文化財の鑑賞が可能な環境整備
デジタルデバイドの解消（再掲）	すべての市民がデジタル化の恩恵を享受できる環境構築

# 5 取組みの方向性(その4) まちがスマート！

方向性	目指す姿
<p style="text-align: center; font-size: 2em;"><b>まちがスマート！</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる生活場面に再生可能エネルギーが使用できており、かつ、消費エネルギーは最適化されている。</li> <li>・誰もが災害発生時に必要な情報を十分取得でき、円滑な避難行動・生活を送ることができるだけでなく、被害が最小化され、短期間で復旧・復興が可能なまちになっている。</li> <li>・年代・性別・時間帯を問わず、あらゆる人が安心して外出できる。</li> <li>・インフラや施設の状態を的確に把握し、異常や危険を自動検知することにより、安全対策が強化されている。</li> </ul>



## 【取組例】

取組項目	概要
地球温暖化対策	再生可能エネルギーの活用、電力量の可視化による省エネ意識の向上
災害に強いまちづくり	バーチャル空間やAI活用による避難行動・災害対応の最適化
安全・安心なまちづくり	カメラやAI活用による犯罪・事故抑制、地域防犯力の向上
インフラ等の維持管理の効率化及び安全対策の強化	ドローン、センサー等の活用やAIによる分析・予測に基づく維持管理の効率化及び安全対策の強化

# 5 取組みの方向性(その5) 市役所がスマート！

方向性	目指す姿
<p><b>市役所がスマート！</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民・企業・NPO法人・地域団体等が、行政とともに、積極的にデータを活用しながら、各主体の特性・強みを生かして、公共サービスを創出し、地域課題が解決されている。</li> <li>・ 自分に合った公共サービスがデジタル技術の活用により、適時に最適な形で示され、選択することができる。</li> <li>・ 市民がICTを活用して容易に市政に参画でき、生きがい・やりがいを感じている。</li> </ul>



## 【取組例】

取組項目	概要
<p>市民・企業・NPO・市民団体等の多様な主体の参画促進</p>	<p>・ 参画機会の創出とその効果を高めるため、デジタル技術の活用や各主体が連携してデータを最大限活用できる仕組みづくりに取り組む。</p>
<p>データを積極的に活用して市民がより良い行動や判断ができる環境の整備</p>	<p>・ データの有効活用や市民のICTリテラシーの向上を図っていくほか、プッシュ型サービス・対話型サービスの実現に向け取り組む。</p>
<p>地域や市民に寄り添う職員の育成・組織風土づくり</p>	<p>・ 市民に寄り添い、前例に捉われずに柔軟に考えることができる組織風土づくりやICT環境の整備に取り組み、市民目線で課題解決できる職員を育成する。</p>

## ○全庁横断で推進

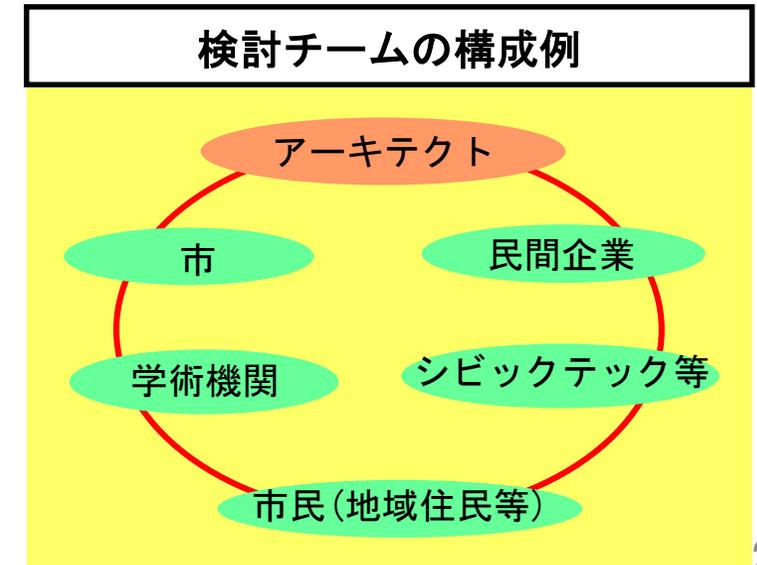
- ・スマートシティ推進に資する取組みは本ビジョンに基づいて推進し、次期基本計画における実施計画事業・個別計画事業に位置づけて進捗を管理

## ○産学官民での協力

- ・国内外のスマートシティの取組みに詳しい有識者に対して、必要に応じてアドバイスを受けられる環境を整備
- ・取組単位で、有識者や民間事業者、庁内関係課をはじめとするステークホルダーを巻き込んだ検討チームを必要に応じて設置
- ・検討チームの設置に当たり、実施取組ごとに最適なステークホルダーを選定するためのマッチングを実施
- ・推進状況等を踏まえ、必要に応じて、産学官民で構成する全市域を対象とした運営形態を検討

## ○シビックテックやエリアマネジメント団体等との連携・協働

- ・サービスの持続性やより市民目線に立ったサービスを提供する観点から、地域課題に応じて、シビックテックや新たな役割を担うエリアマネジメント団体等と有機的に連携し、将来を見据えたサービスを検討・実施
- ・シビックテック団体等との連携により、稼働世代を始めとする幅広い年齢層の市民がプレイヤーとして参加し、ともにサービス内容を検討・構築・改善するなど、協働によるまちづくりを実施



### ○できることから着実に推進（スモールスタート）

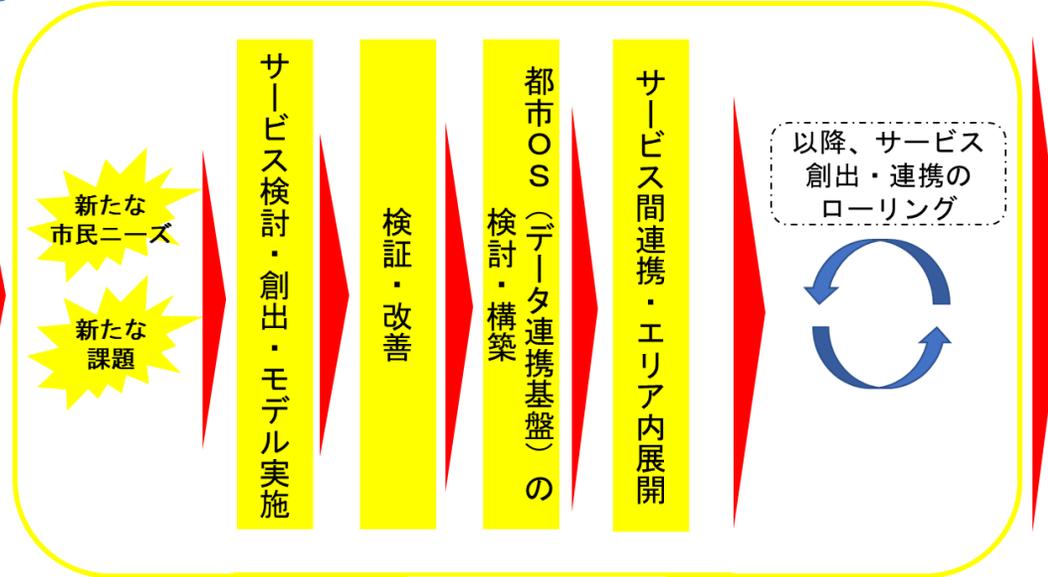
- ・チャレンジ精神を持って新たな技術や手法等を積極的に取り入れ、試行錯誤を重ねる中でイノベーションを起こし、最適なサービスの創出に繋げていくための体制を整備。
- ・エリアごとに住民等と目指すべき姿を共有しつつ、その実現に向けてモデル的な取組みから着実に実施（スモールスタート）。発現した問題に素早く対応し、推進力を維持したままエリア内に展開。エリア内での複数の取組みがつながり、より良いサービスに進化するとともに、他エリアへの横展開によりオール千葉市のサービスに発展。
- ・中立的な立場でプロジェクトを牽引し、調整する人材（アーキテクト）をエリア単位で確保。アーキテクトを中心とした産官学民で構成する検討チームを組織し、行政が主体的に関わる中で取組みを推進。段階的に行政の主体性を希薄化し、将来的には検討チームがエリアマネジメント団体に発展。
- ・住民の利便性向上やサービスの最適化の観点から、エリア内において単一サービスから複数サービスに充実を図るなど、市で共通的に活用する機能が集約され、かつ、スマートシティで導入する様々な分野のサービスを容易に連携できるデータ連携基盤（都市OS）の導入を検討・構築。将来的に各エリアの都市OS間でデータ連携を実現。

## スマートシティの推進イメージ

### 【STEP1】対象エリアでの取組み



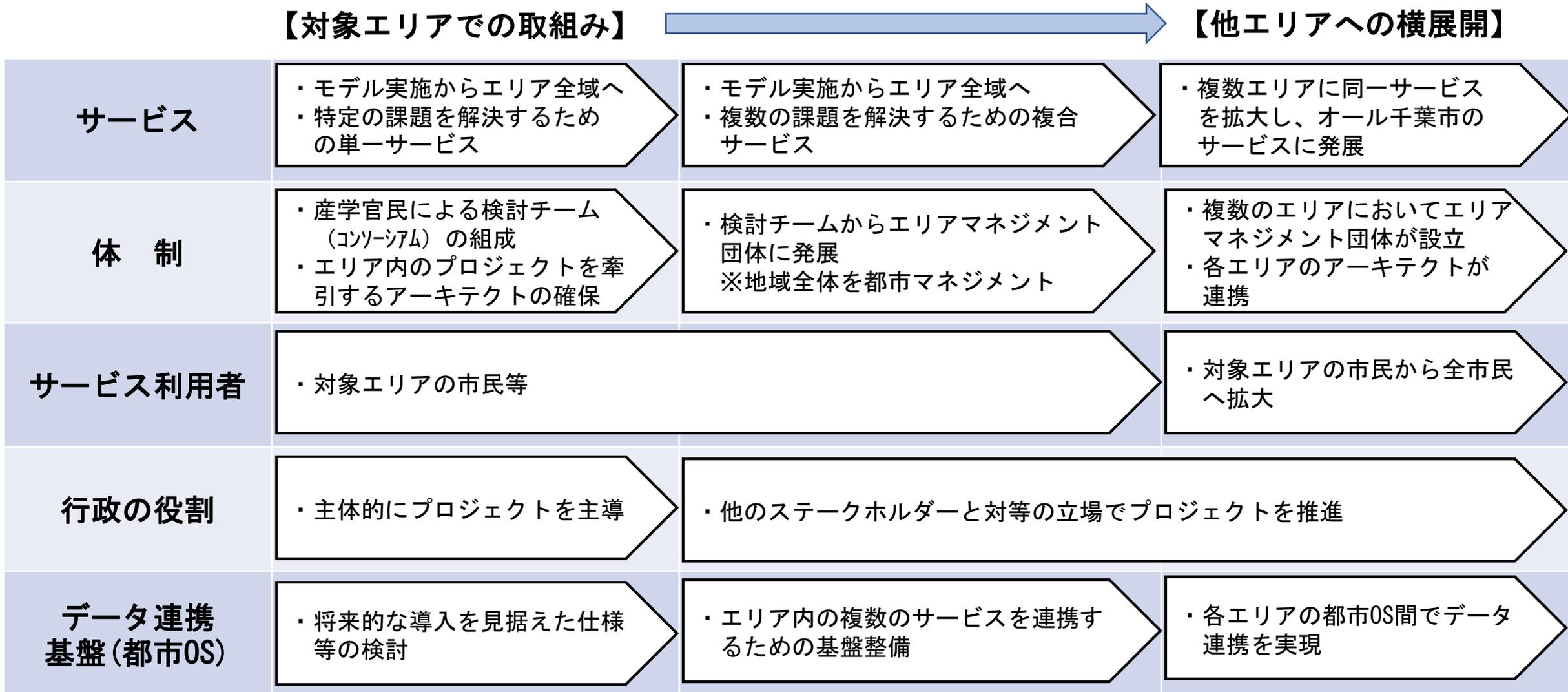
### 【STEP2】対象エリアで複数の取組みを連携



### 【STEP3】他エリアへの横展開



## スマートシティの推進イメージ（詳細）



	現状	5年後	10年後
テクノロジー活用	○分野ごとの課題解決策の検討・実施	○分野横断的な課題解決策の検討・実施	○エリアマネジメントによる課題解決策の検討・実施
テクノロジー実証	○先行エリアにおける実証（自動運転・ドローン等）	○先行エリアにおける実装 ○他エリアにおける実証・実装	○実装事例の横展開・全市展開
データ連携	○サービスごとのデータ利活用 ○オープンデータの利活用 ○データ連携基盤（都市OS）の検討	○サービス間のデータ連携 ○官民データ利活用・連携 ○データ連携基盤（都市OS）の構築	○データ連携基盤（都市OS）の連携

20年後のイメージ

**Society5.0の実現※1**

※テクノロジー活用による経済発展と、地域課題の解決を両立した「人間中心の社会」の実現

・デジタルツイン※2によるリアルタイム課題解決、将来課題予測の実現

・AI技術を活用した各種サービスの生活インフラ化

※1 市民生活に浸透し、一般化している状態を想定

※2 現実に実在しているものを、デジタル空間でリアルに表現したものを指し、現実世界の仕組みや稼働状況などをデジタル空間に構築し、リアルなシミュレーションを可能にする技術